２　地理歴史・公民

学校番号	T2101

平成３１年度　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	世界史Ａ	単位数	２	年次	１～４
使用教科書	高等学校　世界史Ａ　新訂版（清水書院）						
副教材等	標準高等地図 - 地図で読む現代社会 -						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

この科目では世界の歴史について学びます。最も古い時代から始めますが、学習の中心は現代の世界に直接つながる比較的新しい時代の歴史になります。したがって、歴史が苦手な人でも現在の世界で起きている様々な出来事に関心を持てば､その原因をさぐる道すじでこの科目に必要な知識が自然と身につくのでそんなに不安に思うことはありません｡これからの社会で生きていくうえでとても大切な知識ですのでできるかぎり身につけてほしいと思います。

２　学習の到達目標

①　学習を通じて世界史への興味を深め、学ぶ意義に気づくことができる。
②　世界の歴史をさまざまな面から考察し、自分の考えをまとめ適切に表現できる。
③　世界の歴史を学ぶための資料、図表を効果的に活用し、自らの考えを深めることができる。
④　世界の歴史の流れを地理的なものや日本の歴史と関連付けながら理解できる。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	･世界の歴史を学ぶ意義に気づき関心を高め主体的に学習に取り組むことができる。 ･歴史を学ぶなかで平和で民主的な世界･社会を形成していく当事者としての自覚をもった態度を身につけることができる。	･世界の歴史を地理的条件や日本の歴史と関連付けて実証的､多面的、批判的に考察し､自らの考えを適切に表現できる。	・地図や写真、グラフなどの諸資料から有用な情報を読み取り、効果的に思考過程やまとめの際に取り入れることができる。	・古代から現代までのおおまかな歴史の流れや基本的な知識を身につけている。 ・世界の展開を地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解している。
評価方法	学習態度 プリント記入･提出状況	学習態度 プリント記入･提出状況	プリント記入・提出状況	定期試験 プリント記入・提出状況 課題

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
後期中間テストまで	第二編　第一編　ユーラシアの文明と交流 一体化する世界	・アジアの諸文明 ・ヨーロッパの文明 ・ヨーロッパの再編と大西洋世界 ・拡大する欧米の衝撃とゆれるアジア・アフリカ	○ ○ ○ ○	 ○ ○ 	○ ○ ○	 ○ ○	a:世界史を学ぶ意義について考え、様々な歴史的要素や世界史の展開について関心を持ち主体的に学習に取り組んでいる。 b:世界史の展開、自然環境や文化圏の交流、日常生活について歴史的に考察し、適切に表現できる。 c:世界史の展開、自然環境や文化圏の交流、日常生活についての資料を適切に読み取り考察に活用することができる。 d:人類の出現から古代・中世までの大まかな展開、近世以降の世界の一体化と現代世界形成ににいたる歴史を理解し、知識が身についている。	定期試験 プリント記入・提出状況 課題
後期期末テストまで	第三編　現代社会と地球社会への歩み	・世界戦争の時代 ・大戦後の世界と現代社会	○ ○	○ 	 ○	○ ○	a:近現代史の展開に関心を持ち主体的に学習に取り組み民主的な社会の形成者としての自覚を持って考えることができる。 b:近現代史の展開や現代の社会について歴史的に考察し適切に表現できる。 c:近現代史の展開についての資料を読み、適切に考察に活用できる。 d:19 世紀後半からの先進資本主義国の帝国主義の広がりとそれに対抗するアジア・アフリカ地域の民族主義運動、2 つの世界大戦とその後の世界について理解し、知識が結びついている。	定期試験 プリント記入・提出状況 課題

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:資料活用の技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。